

平成 19 年 7 月 31 日

沖縄電力株式会社

## 平成 19 年度第 1 四半期決算について

### 1. 販売の状況

当第 1 四半期における当社の販売電力量は、電灯において、お客さま数は増加したものの、気温が前年より低く推移したことにより、前年同期並みとなりました。電力においても、業務用電力などで、お客さま数は増加したものの、前年の渇水により需要増となった水道業が反動減となったことなどにより、前年同期並みとなりました。その結果、電灯と電力（特定規模需要を含む）の総販売電力量は、前年同期並みの 16 億 81 百万 kWh となりました。

(単位: 百万 kWh、%)

	平成 19 年度 第 1 四半期 A	平成 18 年度 第 1 四半期 B	増減 A-B	前年同期比 A/B
電 灯	643	646	△3	99.5
電 力	1,038	1,037	1	100.1
合 計	1,681	1,683	△2	99.9

### 2. 収支の状況

収入面で、電気事業における燃料費調整制度の影響やその他の事業において前年同期に発生した大型民間工事の反動減などによる影響から、売上高は前年同期に比べ 4.6%減の 349 億 80 百万円（単体では、3.6%減の 327 億 91 百万円）となり、経常収益は、4.9%減の 352 億 3 百万円となりました。

一方、支出面では、金武火力発電所の償却進行に伴う減価償却費の減少があったものの、円安の影響による燃料調達価格の高騰などで燃料費が増加したことや修繕費が増加したことなどによる影響から、経常費用は前年同期に比べ 0.9%増の 355 億 15 百万円（単体では、2.4%増の 332 億 65 百万円）となりました。

以上の結果、経常損益は、3 億 11 百万円の損失（前年同期は 18 億 10 百万円の経常利益）、四半期純損益は 2 億 46 百万円の損失（前年同期は 12 億 82 百万円の四半期純利益）となりました。

### ■平成 19 年度第 1 四半期 連結決算成績（減収減益）

(単位: 百万円、%)

	平成 19 年度 第 1 四半期 A	平成 18 年度 第 1 四半期 B	増減 A-B	前年同期比 A/B
売 上 高	34,980	36,670	△1,690	95.4
営 業 利 益	578	2,629	△2,050	22.0
経 常 利 益	△311	1,810	△2,121	-
四半期純利益	△246	1,282	△1,528	-

■平成19年度第1四半期 単体決算成績(減収減益)

(単位:百万円、%)

	平成19年度 第1四半期 A	平成18年度 第1四半期 B	増減 A-B	前年同期比 A/B
売上高	32,791	34,007	△1,216	96.4
営業利益	501	2,591	△2,090	19.3
経常利益	△271	1,770	△2,041	-
四半期純利益	△173	1,132	△1,305	-

<主な収支好転要因>

①人件費の減	4.3億円	(対前年同期 90.5%)
②減価償却費の減	1.6億円	(対前年同期 97.1%)
③他社購入電力料の減	0.6億円	(対前年同期 98.0%)

<主な収支悪化要因>

①電灯・電力料の減	▲11.9億円	(対前年同期 96.5%)
②修繕費の増	▲6.1億円	(対前年同期 118.9%)
③燃料費の増	▲4.9億円	(対前年同期 105.5%)
④その他費用の増	▲3.5億円	(対前年同期 108.9%)

### 3. 業績予想

平成19年度の業績予想につきましては、売上高は1,628億円(単体1,486億円)、営業利益166億円(単体155億円)、経常利益128億円(単体120億円)、当期純利益80億円(単体77億円)を見込んでおります。

なお、売上高は電気事業において、下半期に燃料費調整制度の適用を見込んでいることから、平成19年4月に公表した業績予想を13億円上方修正しております。ただし、費用についても燃料費の増加などを見込んでいることから、営業利益、経常利益、当期純利益については、前回発表した予想に変更はありません。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	1,628億円 (102.1%)	166億円 (107.2%)	128億円 (109.0%)	80億円 (124.6%)
単体	1,486億円 (100.9%)	155億円 (113.2%)	120億円 (118.9%)	77億円 (120.3%)

※ ( ) は対前年度比